

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年 5月 22日

福井県知事 殿

提出者

住所 福井市大和田1-401  
株式会社アイ工務店 福井支社

氏名 中出 稔

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0770-50-7370

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社アイ工務店 福井支社
事業場の所在地	福井県福井市大和田1-401
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

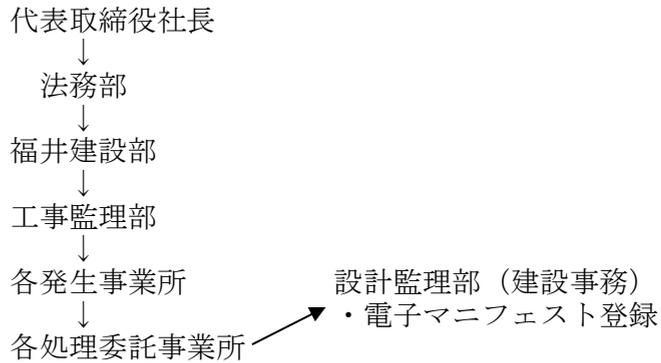
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	D06
②事業の規模	実発注額：1,348,417,499（前年度実績）
③従業員数	25人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	住宅の新築及び解体に伴い発生する。排出された産業廃棄物は収集運搬業者に委託し、委託した外部の処理業者へ運搬してもらう。その後、処理業者にて廃棄物の種類に応じて「再生利用」「最終処分」を行い、処理する。

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	排出量	78.559 t	83.13 t
	(これまでに実施した取組) 可燃物（木くず、紙くず、廃プラ）と不燃物（がれき、ガラス、金属）石膏ボードにて分別 木くず、石膏ボードなどのリサイクル推進		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	排出量	94 t	99.6 t
	(今後実施する予定の取組) 木くず、石膏ボード、廃プラ、紙くず（段ボール）、がれき（サイディング）、陶器瓦くず、金属の7品目にて分別することで混合廃棄物の削減 サイディング材料出荷数の見直しにより排出量の削減		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 可燃物（木くず、紙くず、廃プラ）不燃物（がれき、ガラス、金属）石膏ボードの3品目にて分別
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず、石膏ボード、廃プラ、紙くず（段ボール）、がれき（サイディング）、陶器瓦くず、金属の7品目にて分別対応

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（ 6 年度）実績】				
産業廃棄物の種類	木くず	金属くず	ガラス陶磁器等くず	コンクリート片
廃出量	363.96t	31.075t	29t	7.2t
【目標】				
産業廃棄物の種類	木くず	金属くず	ガラス陶磁器等くず	コンクリート片
廃出量	436t	37t	35t	8.6t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（ 6 年度）実績】				
産業廃棄物の種類	石膏ボード	管理型混合廃棄物	がれき類	
廃 出 量	49.23t	63.31t	441.04t	-
【目標】				
産業廃棄物の種類	石膏ボード	管理型混合廃棄物	がれき類	
廃 出 量	58.8t	75.6t	530t	-

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 全品目において実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) 全品目において今後実施する予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組) 全品目において実績なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組) 全品目において今後実施する予定なし			

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 全品目において実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 全品目において今後実施する予定なし		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	紙くず
	全処理委託量	78.599 t	83.13 t
	優良認定処理業者への処理委託量	77.07 t	82.83 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	10.9 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 可燃と不燃に分けての分別収集を行う			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】				
産業廃棄物の種類	木くず	金属くず	ガラス陶磁器等くず	コンクリート片
全処理委託料	363.96 t	31.075 t	29 t	7.2 t
優良認定処理業者への処理委託料	95.15 t	31.075 t	29 t	7.2 t
再生利用業者への処理委託料	0 t	31.075 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への処理委託料	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託料	0 t	0 t	0 t	0 t

【前年度（令和6年度）実績】				
産業廃棄物の種類	石膏ボード	管理型混合廃棄物	がれき類	
全処理委託料	49.23 t	63.31 t	441.04 t	
優良認定処理業者への処理委託料	27.78	7.54 t	137.64 t	
再生利用業者への処理委託料	0 t	0 t	0 t	
認定熱回収業者への処理委託料	0 t	0 t	0 t	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託料	0 t	0 t	0 t	

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t
<p>(今後実施する予定の取組) 木くず、石膏ボード、廃プラ、紙くず(段ボール)、がれき(サイディング)、陶器瓦くず、金属の7品目にて分別することで混合廃棄物の削減 サイディング材料出荷数の見直しにより排出量の削減</p>		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。